

正算 補予

2月の地震被害を受けた農業用施設の修繕、

企業版ふるさと納税等の追加補正予算を議決



補正予算の主なもの

追加額	内容
599万9,000円	(歳入) まち・ひと・しごと創生寄附金
340万円	(歳入) 災害援護貸付金回収金
81万4,000円	(歳出) 農業用施設修繕事業補助金
500万5,000円	(歳出) 車両改造業務委託料

誘致企業からの 企業版ふるさと納税

市内誘致企業2社から、エル・システム事業に対しての企業版ふるさと納税として600万円の寄附を受けたことから、まち・ひと・しごと創生寄附金の現予算に599万9,000円を追加計上するもの。

議員

寄附をいただいた2社について問う。

市

オリエンタルモーター株式会社とハクゾウメディカル株式会社である。



エル・システム事業による
弦楽器練習の様子

災害援護資金貸付金の 繰上償還

災害援護資金貸付金※について、2名から170万円ずつ、合計340万円の繰上償還があったことから計上するもの。

議員

災害援護貸付金回収金の現状について問う。

市

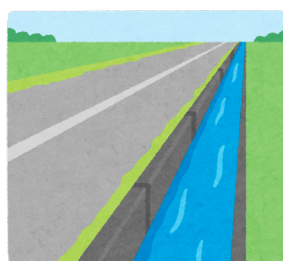
全体で32名からの貸付金の返還があるが、そのうち8名に合計約350万円の滞納額がある状況である。

※災害援護資金貸付金とは・・・大規模な災害等で住宅等に損害を受けた方に対して、生活再建に必要な資金の貸付を行う事業。

農業用パイプライン修繕費を そうま土地改良区へ補助

令和3年2月に発生した福島県沖地震により、そうま土地改良区が管理している相馬市から新地町に抜ける農業用パイプライン(左岸幹線用水路)で、空気弁の破損や漏水、道路洗堀などの被害を受け、6力所の修繕が必要となったことから、そうま土地改良区への補助費用として81万4,000円を計上するもの。

なお、修繕費の負担割合は、そうま土地改良区が50%、残りの50%を相馬市が82.5%、新地町が17.5%、それぞれ負担することになっている。



おでかけミニバスで メタン燃料を活用

現在運行しているおでかけミニバス6台のうち、1台をそうまIHIグリーンエネルギーセンターで生成されたメタンを燃料として活用するため、改造費用として500万5,000円を計上するもの。

議員

改造後の維持費、運営費について問う。

市

使用予定のメタン燃料は、メタンガスに水素が含まれる特殊な燃料で、燃料タンクは特注となる。有効年数は3年間で、その後の維持については費用対効果、温暖化対策の実績などを総合して判断する。

議員

残りの車両の改造予定について問う。

市

残りの5台については、運行状況を見て、メリットが大きい場合は検討していく。

議員

取組の効果について問う。

市

今回の取組は、二酸化炭素を水素と反応させてメタンガスを造るもので、二酸化炭素の排出量が抑えられる取組である。将来の環境を見越し、新たなエネルギー開発に投資するものと考えている。